

なお、湊川隧道の一般公開10周年記念行事として以下のイベントも企画されています。
興味のある方はぜひご参加ください。

○産業考古学会「推薦産業遺産」2011年度の認定

やや旧聞になりますが、今年5月に開催された産業考古学会総会で、新たに2件の産業遺産が「推薦産業遺産」に認定されました。認定を受けたのは次の2件です。

認定番号：第83号

名称：貨物鉄道博物館の保存車両・資料群

所在地：三重県いなべ市大安町丹生川中（貨物鉄道博物館）

推薦理由：同館は鉄道貨物を専門とする博物館で、明治期以降のわが国の発展を支えた希少な車両・資料群が保存されている。保存車両は1898（明治31）年Sharp Stewart製B4形機関車、1906（明治39）年製ワ1形等の有蓋車、1912（明治45）年製ト1形等の無蓋車など16両。資料群には1915（大正4）年度製作ワム23000有蓋車明細図などが含まれる。ここにしかない車両・資料が多く、また貨車を中心とした鉄道貨物専門の博物館は世界初と言われ、希少性・多様性において他に例を見ない。

認定番号：第84号

名称：内野天然樟脳工場の生産設備および関係道具類

所在地：福岡県みやま市瀬高町永田1863-1（内野天然樟脳工場）

推薦理由：世界屈指の生産量を誇ったわが国の天然樟脳製造設備を留めて、唯一可動している明治期創業の樟脳工場である。暖地性植物であるクスノキから樟脳を作り出す産業は、九州・四国・関西などで盛んに行なわれ、セルロイドやフィルム、防虫剤の素材として幅広く使われた。しかし合成樟脳の輸入や石油化学製品の出現によって衰退し、1962（昭和37）年の合成樟脳輸入許可や樟脳専売制度の廃止により絶滅寸前まで激減。今日では同工場が日本唯一の樟脳師として伝統的な技法による生産を行なっている。世界の生産国であった日本の天然樟脳産業の歴史を伝える希少性、国家的価値等が認められる。

〔関連リンク〕

・貨物鉄道博物館

<http://frm.kans.jp/>

・受賞を伝えるブログ「blog 香りの雑記: 内野樟脳が推薦産業遺産に認定」

<http://sakonnotachibna.blogspot.com/2011/05/blog-post.html>

・国産天然樟脳を応援するサイト

<http://kusushounou.jimdo.com/>

○日本機械学会「機械遺産」2011年度の認定

日本機械学会が2011年度の「機械遺産」認定を行ないました。「機械遺産」は歴史に残

る機械技術関連の事物を顕彰する目的で2007年度から行なっています。

44.Landmark 青函連絡船及び可動橋

1908（明治41）年から1988（昭和63）年の青函トンネルの開通までの80年間、北海道と本州を結ぶ物流の大動脈としての役割を担った青函連絡船に関する諸機械。「八甲田丸」「摩周丸」の現存船舶のほか、各船の航海日誌、多数の青函連絡船の建造経過写真、航路運航記録、設計図、取扱説明書、事故報告書、海難審判記録、また船舶に鉄道車輛を搭載するための可動橋も遺産に認定された。

45.Collection 幹線用電気機関車ED15形

1924（大正13）年に製造された幹線用直流電気機関車。長さ13.3m、重量59t、最高速度65km/h、直流1500V、主電動機4台による820kwの定格出力は当時の輸入機関車に匹敵するパワーを有し、試運転の様子が米国の新聞に紹介されるなど技術の高さが海外でも注目された。蒸気機関車に代わる国産電気機関車の原点といえる車輛。株式会社日立製作所水戸事業所蔵。

46.Collection 岡谷蚕糸博物館の繰糸機群

岡谷蚕糸博物館に保存されている明治初期のフランス式繰糸機、諏訪式繰糸機など8台の製糸機械。フランス式繰糸機は官営富岡製糸場で使われていたもので、現存最古の製糸機械である。諏訪式繰糸機は諏訪郡平野村（現岡谷市）の中山社の武居次郎らが1882（明治15）年頃に開発したもので、明治期に全国に普及し、その過程で緒数（糸口）を増やすなど生産性を高める改良が加えられた。明治以降の日本の近代産業の発展に大きく貢献した機械であり、製糸技術の遺産である。

47.Collection 豊田式汽力織機

豊田佐吉が1897（明治30）年に発明し、翌年に特許を取得した綿布用小幅動力織機。よこ糸切断自動停止装置、たて糸送り出し装置、巻き取り装置などの自動化装置を装備して、織物の品質向上と従来の手織り機の20倍の生産性を実現した。国産技術の優秀さを示す遺産であるとともに、日本の繊維機械技術の発展に貢献した機械。産業技術記念館に保存され、動態展示中。

48.Collection 油圧ショベルUH03

1965（昭和40）年日立製作所（現日立建機）において製造された純国産の油圧ショベル。ブームの持ち上げと旋回の複合動作が可能な2ポンプ2バルブという日本独自の方式を採用し、作業性を飛躍的に向上させた。1968（昭和43）年まで製造され、東名高速道路の建設など、同時期の日本の高度経済成長期における土木・建築の作業で活躍。現在、日本で開発した油圧ショベルは、世界シェアの約7割を占めるまでに成長している。日立建機株式会社土浦工場蔵。

49.Collection ファスナーチェーンマシン（YKK-CM6）

1953（昭和28）年、YKKがかみ合う部品（務歯（むし））を間欠的に植付ける機構（間欠植付け機構）を発明、1959（昭和34）年には平角線からのパンチとダイによる務歯打ち抜き、および間欠植付け機構を備えた完全自社開発のファスナーチェーンマシンCM3型機を開発。材料から製品まで一貫して製造されたファスナーは高品質・低価格を実現し、国民の生活向上と産業の発展に大きく貢献した。機械遺産に認定されたのはCM3型の後継機で、1964（昭和39）年から製造を開始した当時世界最高水準の性能を有したCM6型機のうちの一台（1981（昭和56）年製）。

50.Collection 多能式自動券売機

世界初の多能式自動券売機を開発した（株）見澤電機製作所自販機事業部（現高見沢サイバネティックス）が1969（昭和44）年に製造し、北大阪急行電鉄万国博中央駅に設置されていた多能式自動券売機。多能式とは、印刷機構を備えて、発売のたびにロール紙に運賃等を印刷する方式であり、この方式により複数券種の乗車券が発売できるようになった。現存し稼動する最古の多能式自動券売機である。

〔関連リンク〕

・日本機械学会 機械遺産

<http://www.jsme.or.jp/kikaiisan/data/note.html>

○「神戸港冷蔵倉庫」解体される 私有建築物の保存の難しさを露呈

神戸港の繁栄を支えた川西倉庫所有の「神戸港冷蔵倉庫」（神戸市中央区新港町）が解体されています。1925（大正14）年に完成した鉄筋コンクリート造5階建・渡辺節の設計で、日本の近代的倉庫建築の草分けとも言われる建物でした。

渡辺節は神戸・旧居留地の商船三井ビルや大阪・船場の綿業会館（重要文化財）などで知られる名建築家。この冷蔵倉庫は貨物線に沿う緩やかな曲面が特徴で、塔屋や建物下部の石積みに、機能重視の倉庫には珍しいデザインが施されていました。

神戸市は今年3月に策定した「『港都 神戸』グランドデザイン」で、新港地区の倉庫群を歴史資源として位置付け、港の活性化に向けて将来的な転用・活用の必要性を指摘していました。川西倉庫は昨年「老朽化が激しく、改修が必要だが費用がかさむ」と、市に転用・活用してもらうよう打診していましたが、「民間主導が前提」とする市と折り合いがつかず、昨年11月に市に解体を通知していました。市企画調整局は「残ったかったが、保存を命じる法的根拠がなかった」とコメント。川西倉庫は「ホームページで説明責任は果たした」としています。

関連して、芦屋市に残る近代建築の邸宅・旧松橋隆三邸が年内に取り壊されることを

読売新聞が報じています。大阪・天王寺の実業家、松橋隆三が1935（昭和10）年に建てた私邸で、モダニズム建築の雄・石本喜久治による設計。所有者が高齢化し、維持管理や相続税が負担となって手放すことになり、跡地には5階建てのマンションが建つ予定とか。こうした建造物の保護（保存）には重要文化財制度が設けられていますが、適用は所有者の判断に委ねられており、維持費用の負担との兼ね合いで見送られるケースが多いようです。ヨーロッパのように国が強制的に保護することができる法制度の整備を求める声もあります。

〔参考リンク〕

・神戸新聞社ニュース

<http://www.kobe-np.co.jp/news/shakai/0004394708.shtml>

・読売新聞社ニュース

<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20110822-OYT1T00249.htm>

○静岡県が「産業遺産」を紹介する冊子を作成

静岡県がこのほど、「現在の産業の礎を築いてきた建造物」を「産業遺産」と位置づけ、写真等で紹介するガイドブック「静岡県のすごい産業遺産」（A4サイズ・44頁・フルカラー印刷）を作成しました。県下に現存する遺産60点を3巻に分けて紹介するもので、第1巻では以下の20点が掲載されています。

旧マッケンジー邸／門池・配水塔／藤三弘防波堤／落合楼発電所／芝川水系の発電所／旧王子製紙製品倉庫／旧静岡三十五銀行本店（現静岡銀行本店）／川奈ホテル／天城山隧道／安倍川橋／浜名橋／旧国鉄二俣線の施設（現天竜浜名湖鉄道）／御前埼灯台／焼津の防潮施設／旧見付学校／旧南葵文庫（現ヴィラ・デル・ソル）／静岡県庁本館／旧周智郡役所（現森町立歴史民俗資料館）／旧順天堂田中歯科医院／葦山反射炉

2巻目は10月、3巻目は12月に発行予定。希望者には無料で配付しています。下記リンク先の申込書に必要事項を記入し、返信用の切手を同封して郵送。

問い合わせ：静岡県文化・観光部文化学術局文化政策課（電話：054-221-2252）

〔関連リンク〕

・申し込み用紙

http://www2.pref.shizuoka.jp/all/file_download105700.nsf/pages/2E1DA8D1B9F1492578DC0019EFB7

